

第3回保育人材確保懇談会

有識者の先生方の当日のご発言要旨

2025年10月29日 10時00分～12時00分

●佐藤博樹 座長（東京大学名誉教授）

- 個々の園で人材を確保することが最終的な目標ではあるが、そのために保育士という働き方の魅力を高めなければならない。
- 実際は人材の奪い合いを教育、保育、医療の分野内でやっているだけなので、まずは保育や福祉関係に魅力を持つ人を増やす。保育分野に進むか、福祉分野に進むかというのはその後の話であるように感じる。
- 養成校に進学したとしても、他の職に就くこともあるため、養成校で学んだことを生かす職に就いてもらうということは非常に大事だと思う。
- 個々の園で人材確保のために競争している部分はあるが、やはり連携し、まずは日本社会全体として保育・教育・介護の分野に关心を持ってくれる人を増やす。その後、福祉に目を向けてもらうために、教育と福祉に关心を持つ人を増やす、そして、保育に关心を持つもらう機会になればいい、と思った。
- 文部科学省もこども家庭庁も厚生労働省も保育士も幼稚園教諭も介護職もどう連携するかが大事だと感じる。縦割りがやはりまだあるので、横に連携しながら広く教育・保育・医療の分野に关心を持つ若い人を増やしてほしい。

●舟久保利明 座長代理（大田CP21代表、東京都産業教育振興会理事）

- 中学生の職場体験に関して、大田区といえばものづくりだが、ものづくりに行く中学生は全体の5.6%であるのに対して、保育所、幼稚園に行く生徒は全体の20.74%、人数になると約800人とかなり多い人数である。
- 毎年、そのうちの数人が保育関係の道に進んでいると聞くが、このような事実が伝聞であるということからも、中学生の職場体験に関する行政の調査文書を見たいと感じる。
- 職場体験事業に来たこどもたちに伝える3つのことがある。

- ①「働くとは何か」ということ。働くということは、初めは自分の楽しみや食べるためだが、結局は「社会の一員となる」ということである。人から頼りにされる人間になってほしい、欠けたら社会は回らない存在になってほしい、と学生に伝えているようにしている。

- ② 「技術」について考えてほしい。紙に書いたことだけではなく、いわゆる暗黙知（自分で習得した技術）が積み重なって次世代につなげていくという意味での技術について考えてほしい。
- ③ とにかく自分の興味を持ち続けてほしい。とにかく自分の思ったことを突き進んでやってほしい。

○上の3つの素質を備えたこどもに育っていってほしいという思いがある。

特に職業体験は、「自分が実際に職場に行きその職業の魅力を感じ、自分が頼りにされるような人材になる」ということを体験できるので、職場体験のときに上記3つを伝えようとしている。

○東京都産業教育振興会の理事会の中で保育所や幼稚園の話題があまり出なかつたため、今後自分が理事をやっていく中で、今回の懇談会を契機として振興会の中でよくなるよう発言していきたいと思う。

●佐藤座長 保育人材確保懇談会全3回を通してのご感想

○それぞれの団体で保育の魅力発信に取り組んでいるのだから、これからそれぞれの団体の取組を学ぶところは学び、連携し、今以上に保育分野の働き方改善に取り組み、仕事の魅力を発信してほしい。

○これから若い人は減っていくのだから、人材の「確保」も大事だが、「定着」がより重要だと思う。

○過去に資格を持っていた人、資格はないが関心はある人に、まず補助的なところから入って勉強してもらうといったことや、今仕事をしている人や無業の人に入ってきてもらうといったことをしない限り、人材確保はできない。したがって、そういう人たちへの魅力発信というのもぜひ頑張ってほしい。